

令和7年度 学校経営方針

赤穂市立高雄小学校

I 学校教育目標

認め合い 学び合い 夢に向かって進む 児童の育成

II 校訓

自 主	自ら進んで
協 力	力を合わせて
責 任	最後までやりぬく

III めざす児童像・教師像・学校像

1 めざす児童像

- (た) たくましい子 (体育)
命を大切にし 元気な体と体力・気力をそなえた子
- (か) 考えぬく子 (知育)
自ら学び じっくり考え とともに高め合う子
- (お) 思いやりのある子 (徳育)
自分も相手も大切にし 感謝の気持ちをもつ子

2 めざす教師像

- 児童一人一人の個性や力を認め、寄り添い、伸ばすことができる教師
- よりよい教育活動・授業を目指し、常に学び続ける教師
- 何事にも誠意をもって対応し、児童・保護者・地域・同僚から信頼される教師

3 めざす学校像

- 心理的・身体的安全性が高く、一人一人のよさを認め合う学校
- 仲間とともに学ぶ楽しさを実感する学校
- ふるさと高雄を大切にし、家庭・地域とともに歩む学校

Ⅳ 学校経営の基本方針

- 1 互いのよさに気づき、認め合い、共に伸びていこうとする集団づくりを実践する。
- 2 少人数の強みを生かし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、自ら学ぼうとする児童の育成を図る。
- 3 「地域のあかり」となる学校を目指し、地域学校協働活動を推進するとともに、ふるさとを大切にする児童の育成を図る。

Ⅴ 重点目標

1 豊かな心の育成

①人権教育の推進

- ・「分かる・できる」達成感を味わうことができる教育活動、互いに賞賛や感謝を伝え合う教育活動を推進することで、自尊感情や自己有用感を育む。
- ・異年齢集団活動や地域の方との交流などを通して多様な他者に触れ、互いの個性を認め合い、他者を思いやる心情を育む。
- ・「みんなじかん」を利用した児童の主体的な特別活動を推進する。

②いじめ・不登校問題への組織的な対応

- ・月1回のいじめ（こころ）アンケート、週1回の簡易版いじめ（こころ）アンケートにより、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- ・教職員間、福祉や医療などの専門機関や市の関係機関との連携を密にし、「チーム学校」として組織的に対応する。

③特別支援教育の充実

- ・児童や保護者との合意形成の下に、実態や教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援及び合理的配慮の提供を行う。
- ・通常学級児童と特別支援学級児童の「交流及び共同学習」において、共に学んでいる実感や達成感が得られるよう指導方法や体制を工夫する。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育校内委員会等を通して、児童の実態や指導・支援について全教職員の共通理解を図り、組織的かつ計画的に適切な指導・支援を行う。
- ・関係機関との縦横連携を推進し、支援体制の確立を図る。

④キャリア教育の推進

- ・特別活動を要としてキャリア教育の充実を図り、なりたい自分に向けて努力する児童を育てる。
- ・地域の方を招いたり地域に出かけたりして行う体験活動を通して、地域社会を支える人や産業、環境への関心を高める。

2 確かな学力の育成

①「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造

- ・学びの個別最適化と多様な他者との協働により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。
- ・探究的な学習の充実を図り、学習の見通しと振り返りを明確に設定して、自

ら学習を調整する力を育む。

- ・小規模校の特色を生かした教育活動、授業づくりを推進する。
- ・「ここじかん」を利用した児童の主体的な探究学習を推進する。

②基礎・基本の力の定着と向上

- ・Tタイムを効果的に活用し、漢字・計算の練習や確認テストを実施する。
- ・トークタイムや音楽を通じて、豊かな表現力を培う。

③ICTを活用した学習活動の日常化

- ・ICTの特性を生かして空間的・時間的制約を緩和し、個々の児童に応じた個別最適な学びや多様な人々と学び合う協働的な学びの充実を図る。

3 命・体・心を守る力の育成

①体育・保健学習の充実と日常的な運動や遊びによる体力づくり

- ・外遊びや異年齢集団での遊び（なかよし遊び）を奨励する。
- ・自己の体力を正しく把握し、主体的に向上を図る態度を育てる。
- ・自らの健康に留意する児童を育てる。

②健康・安全面の充実

- ・教育相談体制の充実を図る。
- ・危機管理対応について、教職員の研修を計画的に進める。

③家庭と一体となった生活習慣の改善と確立

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動により、各家庭への啓発を行い、基本的生活習慣の定着を図る。
- ・ネット上のルールやマナーなどの情報モラルに関する指導の充実を図る。

4 ふるさとを愛する心の醸成

①地域学校協働活動の推進

- ・地域の各種団体やボランティア等と連携し、社会に開かれた教育課程を推進する。
- ・地域の自然（「川の駅」のハマウツボ等）、歴史、伝統文化についての学びを教育課程に位置づけ、地域とともに学ぶ関係を築き、継続させる。
- ・児童と地域の方が直に双方向で交流する機会を大切にする。
- ・ふるさとや地域の方々に感謝の心をもち、行動に表す児童を育成する。

②地域・家庭との連携

- ・保護者や地域との情報交換を密に行い、ともによりよい教育活動を行う環境を作る。
- ・幼小中が連携をとり、授業交流や交流行事等を実施し、年齢を超えた地域の仲間作りを進める。

5 「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざした職場づくり

①業務改善の推進

- ・教職員からアイデアを募り業務改善を推進することで、教職員が働きやすい職場、働きがいのある職場作りを行う。
- ・定時退勤日、ノー会議デーの完全実施を目指す。

②教職員の協働体制の確立

- ・教職員一人一人の能力・適性をいかした組織を構築するため、分掌配置を工夫する。
- ・ベテラン及び中堅教職員の声かけにより、教職員同士の連携・補完を進め、指導力向上と組織力強化を図る。
- ・報告・連絡・相談機能の徹底を図り、「チーム学校」として組織的に行動することを日常化する。

6 保護者や地域に信頼される学校づくり

①教職員の資質向上

- ・研究推進担当を中心に、授業公開や講師招聘研究授業等の校内研修を実施する。
- ・個々の教職員が得意分野をもち、その研修に励み、力が発揮できる環境を作る。
- ・OJTによる知識や指導技術の伝承等、互いに学び合い、認め合う教職員集団を作る。
- ・「チーム担任制」を取り入れ、全ての児童を全ての教職員で育てる意識をもつ。

②学校評価の充実

- ・学校評価結果を活かした教育活動の改善を図る。
- ・学校関係者に学校施設や教育活動を評価してもらうための機会を適切に設ける。

③危機管理体制の確立

- ・毎月1回の安全点検を適切に実施し、施設環境の整備に努める。
- ・危機管理マニュアル等に基づき、危機管理体制を確立する。

④積極的な情報発信

- ・学校だよりや学年だより、ホームページ等により積極的に情報を発信する。
- ・学校行事、オープンスクール等、地域の方に学校を公開する機会を適切に設ける。
- ・小規模校の強みを生かした特色ある教育活動についての情報発信に重点を置く。

創立152周年（令和7年5月8日）